

編集後記

日ごとに春の色合いが濃くなる今日この頃、みなさまの施設では医局や病棟にたくさんの新しい仲間を迎え、活気づいた日々を送っておられることと存じます。希望に満ちた若い人たちを大切に守りしっかりと教育をすることは、それぞれの施設に与えられた大きな課題であると思います。その意味において、学会および学会誌の果たす役割は大きいと考えます。日本小児循環器学会は、昭和40年（前回東京オリンピックの翌年）に研究会として創設され、今年で53年目を迎えます。学会誌は1985年（科学万博つくば博の年）に発刊され、こちらも33年目を迎えます。諸先輩の多大な尽力により築かれここまで大きくなった日本小児循環器学会ですが、様々な意味において学会や学会誌のあり方が問われる時期に入ったと思います。そこで日本小児循環器学会の更なる発展を期待して、本年より英文雑誌“The Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery”を発刊することになりました。現在、初刊の招聘原稿と投稿原稿の編集作業を行っています。昨今、世界中の様々な出版社から数多くのe-journalが発刊されるようになりましたが、学会誌としての英文誌の発刊の意義はとても大きいと考えます。出版社主導のe-journalでは、発刊して間もなく活気があるうちは良いですが、原稿が集まらず利益が上がらなくなれば知らない間に消滅してしまうかもしれません。一方、学会主導のe-journalでは、会員のみなさんの学術および教育に対する熱意がある限り、継続し発展します。時間はかかるでしょうが、小児循環器医学の道しるべとなるような国際的なe-journalにしていきたいと考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。また本年は、学会主導の教科書「小児循環器学」の編集も開始しました。全国の専門家の先生がたに執筆をお願いし、基礎から最先端の臨床の知識を、カラーの図を多く使用して、分かりやすく、かつ最新の知識を記載した本にする予定です。かなりのボリュームになりそうですが、執筆いただく先生におかれましては、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

心臓病の子どもたちの明るい未来のためには、日々の診療が最も重要であることは言うまでもありませんが、それを発展させるための臨床研究、基礎研究、データ登録、治験活動、技術開発など、学会を中心とした学術活動が不可欠です。編集委員会では、学会誌やニュースレターを通じて、会員のみなさんの診療と研究活動のお役に立つ努力を今後も続ける所存です。

（白石 公）